

## PMF思い出エピソード

20回目を記念して、皆様からPMFの思い出やエピソードを募集しておりました。これまでに寄せられた多くのエピソードの中から一部(抜粋)をご紹介します。



エッセンバッハが帰ってギターー！それもマーラーの「復活」をひっさげて。思い出せば97～98年に聴いた彼のマーラー、なかでも97年の5番は今でも心に残る最高の名演奏でした。それにしても11年ぶりのカムバックが「復活」とは泣かせます。私自身も10年ぶりの「PMF復活」です。(46歳男性 道内在住)

「1990年芸術の森」でのコンサートに望遠鏡を持って、バースタインの指揮を見ていました、……。すると時々バースタインが望遠鏡から消えるんです???。見ると飛び跳ねて指揮棒を振っていました。感動しました。それから間もなく、訃報を知り驚きと悲しみを思いだします。(PMFも、これで終わりか???)...と、... (芦別市在住)



アカデミー生に対してボランティアをしたことがあります。一つ目は夏祭りでみなで輪になって盆踊り。もう一つは書道の練習です。楽器の練習の合間をぬってちょっと立ち寄りお手本をまねてかく。基礎練習もなにもないですがアカデミー生の書く字がなぜか味があるのは芸術という共通項があるからでしょうか。忙しいアカデミー生たちにとっても日本文化を垣間見るよい息抜きの時間になったのではと確信しています。

## オープンリハーサル「当日コース」参加者募集

「オープンリハーサル」は世界一流のアーティストがPMFアカデミー生に指導する風景を見学できるプログラムです。

今年は一日だけでもご参加いただける「当日コース」を新たに設けました。中学生以上であれば、どなたでも参加することができます。ぜひこの機会に、通常は見学する機会が少ないオーケストラのリハーサル風景を間近にご覧ください。

○お申込みについて  
当日コースのお申込みをご希望の方は、オープンリハーサルスケジュールをご確認いただき、参加希望当日のリハーサルおよびケネプロ会場にてお申込みの受付をいたします。受付にてお申込書にご記入いただき、コース料金をお支払いください。  
※定員に達した際は入場できない場合がございます。

当日コース料金 1,000円

### ■オープンリハーサルスケジュール確認方法

PMF公式ウェブサイト <<http://www.pmf.or.jp>>

PMFを聴く

オープンリハーサル

オープンリハーサルプログラム

※当日コース参加受付の有無につきましては、公式サイトでもご確認いただけます。  
※オープンリハーサルスケジュールは7月1日以降専用ダイヤル(TEL.011-520-1686)でもご確認いただけます。



### ■お問い合わせ・発行

(財)パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会 <http://www.pmf.or.jp>

〒060-0052 札幌市中央区南2条東1丁目1-14 住友生命札幌中央ビル1階 TEL. 011-242-2211 FAX. 011-242-1687 E-mail: webmaster@pmf.jp

### ■主催:財団法人パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会

■助成:北海道/札幌市/野村国際文化財団/(財)日本宝くじ協会/芸術文化振興基金/(財)ローム ミュージック ファンデーション

■グランドパートナーズ<特別支援企業>:野村グループ/パナソニック(株)/日本航空/トヨタ自動車(株)

■特別後援:(株)北海道新聞社/(株)日本経済新聞社

■協賛:北海道電力(株)/(株)北洋銀行/ホクレン農業協同組合連合会/サッポロビール(株)/東日本電信電話(株)北海道支店/(株)NTTドコモ/(株)北海道銀行/札幌商工会議所/日本ユニシス(株)/北海道放送(株)/(株)JTB北海道/イオン北海道(株)イオン札幌発寒ショッピングセンター/(財)札幌市中小企業共済センター

■野外コンサート協賛:伊藤組100年記念基金

■PMF20回記念事業協賛:(社)札幌馬主協会/北海道電力(株)/オーストリア造幣局

■特別協力:ヤマハ(株)

■協力:北海道旅客鉄道(株)/つばめ自動車(株)

■施設協力:(財)札幌市芸術文化財団/エリエールスクエア札幌 渡辺淳一文学館/札幌プリンスホテル

■M(社)企業メセナ協議会助成認定活動

NOMURA Panasonic JAL TOYOTA

# Pacific Music Festival PMF NEWS

2009 Sapporo



客演指揮者  
シャン・ザン  
©Rosalie O'Connor

20  
回  
目  
の  
夏  
を  
奏  
で  
る

レジデント・コンポーザー  
レーラ・アウエルバッハ  
©F. Reinhold

2009.6.19  
vol. 53

# Lera Auerbach

レジーナ・コンポーザー／コンポジションコース教授

レラ・アウエルバッハのことを知ったのは今から5年前、新聞のCD新譜評で彼女がピアノ演奏したアルバム「トルストイのワルツ」が推薦されていたからだ。ロシアの文豪トルストイをはじめ、バレエ振付師のバランシン、バランシンらを見いだした芸術プロデューサーのディアギレフなど、彼女はめったに演奏されないピアノ小品や歌曲を録音していた。トルストイなど一芸に秀でた人は、余技の音楽でも才能を発揮するものだと感心しながら、繰り返しCDを聴いた。このCDジャケットには頬杖をつく印象的なポートレートも掲げられていたが、それ以来、彼女のことはすっかり忘れていた。

そのアウエルバッハのことを急に思い出したのは、PMF2009のプログラムを組織委員会が今年2月に発表したのがきっかけだ。彼女は、今年のPMFに作曲コースの教授として来日する、ロシア系アメリカ人と紹介されていた。略歴にはくだんのCDのことが触れられていなかった、当初は同一人物とは思わなかった。パンフレットには聡明さを感じさせる顔写真も載っていたが、CDの写真とは全くの別人だった。ボクはロシア語・ロシア文化を専門にしているため、大概のロシア文化人は知っているつもりだったが、「この女性は誰なんだ」と本格的に調べきっかけになった。あちこち調べまくったところ、自分が知っている「トルストイのワルツ」の演奏者だとわかった。

最近ではYouTubeという便利な動画サイトもあり、今回調べるついでに、アウエルバッハの名前で検索してみると、予想外に多くの動画にヒットした。中には、リストが生きていたら、短調ソナタはこのように弾くだろうと、一聴してたちまち鳥肌が立つ Lera Auerbach plays Liszt Sonata in b minor というロシア時代にな

したと思える演奏や、音楽とは何かを英語で説明する Lera Auerbach and the meaning of music という映像もあった。面白いのは Lera Auerbach interview 1990 という米国移住前の16歳の映像で、ロシアのテレビ番組で、作曲家では誰が好きかを問われて「バッハよりもモーツァルトが好き。モーツァルトは自由だから」とインタビューに答えている。この映像は彼女が母語のロシア語で答えているので、残念ながら万人向けではないけれど。

動画サイトの映像でもCDの写真でも、ロシア時代や現在も含めて、彼女は印象が画然と違うので、どれが本当のアウエルバッハなのか、頭がぐらくらしてしまう。彼女は、上述のように、超絶技巧のピアニストであり、CDを何枚も出している作曲家であり、詩集を刊行している詩人でもあるという。7月の来日の際には、本人にインタビューして、どれが本当のあなたなのか、と聞こうと思っている。その意味で、ボクは新聞記者としても、一ファンとしても、今から彼女の来日を心待ちにしている。

(読売新聞北海道支社記者 土田 浩平)



©F. Reinhold

## ■出演及び、アウエルバッハの作品が聴けるコンサート

札幌交響楽団演奏会 7月17日(金)18:00 札幌コンサートホール *Ki tara*

パシフィック・サウンディングスI～アカデミー生の作品～ 7月21日(火)19:00 札幌コンサートホール *Ki tara* 小ホール

パシフィック・サウンディングスII～レラ・アウエルバッハの世界～ 7月22日(水)19:00 札幌コンサートホール *Ki tara* 小ホール

# Xian Zhang

客演指揮者

円熟の巨匠の指揮を堪能するのももちろん良いが、いわゆるライジング・スター指揮者の若々しい気迫を聴くのも楽しい体験だ。幸いにも今、世界のオーケストラ界に台頭して来ているすばらしい若手指揮者は、枚挙にいとまがない。

今回PMFに初お目見えすることになる中国生れの女性指揮者、シャン・ザンもそのひとりだろう。筆者は昨年(2008年)4月、彼女が東京オペラシティコンサートホールで、東京交響楽団を指揮した演奏を聴く機会があった(その時にはシャン・ザンと表記されていた)。プログラムはベートーヴェンの《レオノーレ序曲第3番》と、シューマンの《交響曲第4番》、それにイダ・ヘンデルをソリスにしたベートーヴェンの《ヴァイオリン協奏曲》だった。



©Rosalie O'Connor

印象を一口で言うなら、実に小気味よい指揮をする女性指揮者——ということになる。小柄で敏捷で、テキパキとした身振りで、しかもがっちりとした緻密に音楽を組み立て、メリハリのよいアクセントをつけながら、颯爽としたテンポで曲を進めて行く。《レオノーレ序曲》でのアレグロがきわめて躍動的な、快いテンポだったことにも感心させられたが、非常に難しいシューマンの《第4交響曲》の第3楽章から第4楽章へ入るところ

——ここでのクレッシェンド(次第に音量を増す)は聴き手の胸を躍らせる有名な個所で、指揮者の腕の見せどころだ——での、シャン・ザンが創り出す緊迫感に満ちた豪快な盛り上げには息を吞まされたものである。さらにベートーヴェンの《ヴァイオリン協奏曲》では、「老練の大女王」イダ・ヘンデルのソロに対して全く物怖じせず、真っ向から明るく闘いを挑むといった雰囲気、オーケストラから引き締まった重厚な音色を引き出し、作品を生き生きとまとめたのであった。

たった1回の演奏会を聴いてすべてを判断するわけにも行かないが、その時の印象を基にして言えば、彼女シャン・ザンは、大きな注目株である。すでに欧米の各トップ・オーケストラに客演の場を拓けており、今秋からはリカルド・シャイーの後任として、ミラノ・ジュゼッペ・ヴェルディ交響楽団の音楽監督への就任も決まっている。今回のPMFでのコンサートでは、ストラヴィンスキーの《火の鳥》組曲や、アンドレ・ワッツとの協演でベートーヴェンの《皇帝協奏曲》を指揮するが、どんな音楽を聴かせるのだろうか。演奏家ならだれにでも、若い時期にしかできない、意気軒昂な演奏スタイルというものがあるのだ。かつてはバーンスタインもそういう演奏を聴かせた時期があった。その若さにあふれる音楽こそ、「ライジング・スター指揮者」の魅力なのである。

(音楽評論 東条 碩夫)



アンドレ・ワッツ(ピアノ)  
©Steve J.Sherman

## PMFトークセッションを開催中。

20回目を迎える今年のPMFの聴きどころや裏話を、多彩なゲストによる軽快なトークで紹介する「PMFトークセッション」を開催中です。PMF修了生によるミニコンサートを開催する回もあります。どうぞお気軽にご参加ください。

	日時・場所	出演者	内容
第2回	6月27日(土) 17:30～ エリエールスクエア札幌 渡辺淳一文学館 講義室(地階) (中央区南12条西6丁目)	【第1部】 竹津 宜男(PMFボランティア・ハーモニー顧問) 渡辺 史子(PMF職員)	【第1部・トーク】 20回を振り返って、裏方の秘話 今後のPMFに期待すること
		【第2部】 八條 美奈子(修了生、フルート)ほか	【第2部・演奏】 PMF修了生によるミニコンサート
第3回	7月10日(金) 18:30～ 豊平館広間(2階) (中央区中島公園1-20)	【第1部】 木之下 晃(写真家) 渡辺 史子(PMF職員)	【第1部・トーク】 ファインダーから覗いたPMF アーティストとの交流
		【第2部】 カール・ギュンター・ザグマイスター (PMF出演アーティスト・マネージャー)	【第2部・講演】 映画「第三の男」出演者による 舞台・音楽の体験談
第4回	7月20日(月・祝) 14:00～ 北海道立文学館 講堂(地階) (中央区中島公園1-4)	【第1部】 奥田 佳道(音楽評論家) 川瀬 賢太郎(PMFアシスタント・コンダクター)	【第1部・トーク】 指揮者の世界 音楽・PMFとの出会い
		【第2部】 調整中	【第2部・演奏】 PMF修了生によるミニコンサート

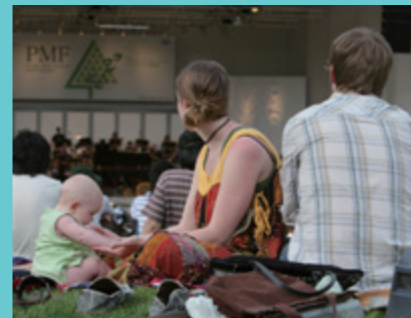
定員/各回100名(全席自由) 料金/1,000円(税込) ※当日受付にて現金でお支払いください。

※お申し込みは、電話(011-242-2211)、FAX(011-242-1687)、Eメール(webmaster@pmf.jp)で、希望回、人数、氏名、ふりがな、連絡先(自宅・携帯・勤務先の電話番号等)をお知らせください。(先着。各回とも前日までの受付)

## 家族と一緒に楽しむPMF

普段、クラシックコンサートと言えば、まず思い浮かべるのは料金が高い、なんだかかじこまっている、正装をしなくてはいけないなど、どうもお堅いイメージで入りづらい感じに思われがちです。たしかに中には敷居が高く格調あるコンサートもありますが、もっと多くの人に色々な場所で気軽に聴けるコンサートもたくさんあります。PMFにも気軽に楽しめるコンサートがいくつかあります。その中の一つが野外コンサートです。

PMF2009では開催期間中の毎週日曜日に札幌芸術の森・野外ステージでコンサートを行なっています。晴れわたる青空のもと鮮やかな芝生の上で、幼い子どもと一緒にピクニック気分演奏を楽しむことができます。また7月最後の日曜日には「ピクニックコンサート」と題してお昼から夜まで、室内楽やオーケストラを楽しむことができるコンサートを開催します。毎年多くの家族連れをお見かけします。



また、PMFでは演奏をより気軽に楽しんでいただける無料のコンサートもあります。北海道立近代美術館や北海道立三好太郎美術館で行なうコンサートでは、音楽とアートに身を委ね、ゆったりとした時間を楽しむことができます。それから札幌を代表する公園の一つでもあるモエリ沼公園、その中にあり公園のシンボル「ガラスのピラミッド」でもコンサートが行なわれます。

いずれの演奏会も、子どもたちが身近に音楽や芸術に触れることができるチャンスです。ぜひこの機会に足を運んではいかがでしょうか。

## ■出演コンサート

PMFオーケストラ演奏会 7月18日(土)19:00 札幌コンサートホール *Ki tara*、7月19日(日)15:00 札幌芸術の森・野外ステージ

※なお、7月18日(土)の公演につきましては前売券完売となっております。なお、7月19日(日)はまだ席の余裕がございます。

私たちはPMFを応援しています。——



白馬堂印刷スペース

広告枠スペース